



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一 氏

第 117 号

平成26年 6 月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／宇南山 照元 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

理事長挨拶

理事長就任にあたって



栃幼連理事長 石嶋 勇

平成二十六年五月十六日の栃幼連五月通常総会に於て理事長に選任されました。二期目のスタートを切らせていただきました。

二年前を振り返りますと、「はたして歴代の理事長先生のようなリーダーシップを発揮して連合会をまとめて行くことができるのだろうか？」など大変不安な気持ちでのスタートでありましたが、多くの先生方のご指導とご援助を賜り、お蔭様で大過なく責任を全うすることができました。ありがと

うございました。

本年度は、子ども・子育て支援新制度へ向けた準備が国・県・市町で進められております。いくつかの選択肢の中から現行の幼稚園として私学助成や就園奨励費を受けて幼児教育を継続するのか、また新制度へ移行して認定こども園（幼稚園型・幼保連携型）として施設型給付を受ける等、各幼稚園の判断にて進むべき道を選択することになっていきます。

また、五年間で見直すこと

も認められている事から進路変更も可能とされています。しかし、今後も国の子ども・子育て会議の進捗を慎重に見守らなければなりません。

国は、公定価格の仮単価を示しました。また、県・市町は現在事業計画の検討をおこなっています。

私たちは「すべての子どもの最善の利益が実現される社会を目指す」そんな思いを抱き大きな変革期を乗り越えて幼児教育を守らなければなりません。

一方、県内の動きに目を向けますと、本年度は五年間凍結されていた運営費が増額します。これは、振興連盟会長はじめ・役員・会員の皆様の献身的なご努力の賜物であります。今後も栃幼連と振興連盟は一枚岩となり様々な振興活動を展開してまいりますので県内私立一八八の全ての幼稚園が結束して活動いただきたいと願っております。

今年度は第二十九回全日本私立幼稚園連合会・関東地区教員研修栃木大会が八月十八・十九日に宇

都宮市内会場を中心に開催され、

開会式では、福田富一知事の出席を賜りご挨拶を頂く予定であります。

県内のすべての幼稚園が一致協力して、来県されるすべての方を「おもてなし」の心で歓迎いたしましょう。

会員の皆様のご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

文書学事課長

就任にあたって



文書学事課長 金田 繁夫

本年四月に文書学事課長に就任いたしました金田です。どうぞよろしく願います。

一般社団法人栃木県幼稚園連合会及び会員の皆様には、本県の幼児教育の振興や充実のため、格別の御尽力と御協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

御案内のとおり、近年の子ども



たちを取り巻く環境は、急速な少子高齢化や核家族化、共働き世帯の増加等、大きな転換期にあります。そうした社会の大きな変化に対応し、豊かさを実感できる社会を実現するためには、未来を担う子どもたちを社会全体で守り、育てていくことが重要です。特に幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を築く時期であり、幼稚園の果たす役割は大きなものがございます。

また、幼稚園は、幼児に対する教育の他にも、施設の開放や保護者の交流、子育てに係る情報提供や相談を行う等、社会全体での子育てを推進していく中核的役割を果たしていることから、今後、従来にも増して県民からの期待が大きくなるものと思われまます。

このような中、平成二十七年四月施行予定の「子ども・子育て支援新制度」についてであります。現在国においては、幼保連携型認定こども園の認可基準をはじめとする各種基準や公定価格の骨格等の検討が行われ、徐々に新制度の詳細な部分が明らかになってきております。

県、市町村においても、地方版子ども・子育て会議等において、ニーズ調査結果のとりまとめ等を踏まえ、子ども・子育て支援事業計画等の策定作業を進めているところであり、来年度の施行に向け、今後、国の検討結果を踏まえ、加速度的に各種検討が進むものと思われまます。

この新制度施行にあたり、幼稚園の皆様は、認定こども園になるのか、施設型給付・私学助成のいずれを選択するのか等、自らの判断で選択を行っていただくこととなります。県といたしましては、これらの判断の一助となるよう、市町村等とも連携の上、必要な情報を適時適切に提供する等、円滑な新制度への移行に向けて的確に対応して参ります。

最後になりますが、幼稚園が果たす社会的役割を十分認識し、幼児教育や子育て支援の充実にも引き続き取り組んで参りますので、次代を担う子どもたちが明るく元気に、そして心豊かに成長できるように、栃木県幼稚園連合会や幼稚園の皆様のさらなる御理解と御協力をお願いいたします。

平成26年度 五月総会

五月十六日(金) 午後二時より
宇都宮市コンセーレ・アイリス
ホールにて平成二十六年五月総
会が開催された。



当日は、来賓として栃木県議会
議長螺良昭人様、
栃木県経営管理部
文書学事課課長金
田繁夫様、同副主
幹古林正様、同主
事篠崎充様、幼
児教育センター長
田淵光与様、の
ご臨席をいただいた。



総会は、中川副理
事長による開会宣
言の後、石嶋理事長
の挨拶に引き続き、
来賓の螺良県議会
議長、金田文書学
事課長よりご祝辞
を賜った。続いて

【議長選出】

山崎 英明氏(金井台幼稚園)

【資格審査】

(一九四園中) 出席園一一三園
委任状七十四園

【議事録署名人】

川崎 寛章氏(真岡杉の子幼稚園)
笹沼 慶子氏(こばと幼稚園)

【記録人】

河合 智美氏(事務局)
の手續を経て、議事の審議に
入った。

【報告事項】

石嶋理事長より「子ども・子育て支援新制度」を中心とした中で
の総括的な事業報告があり、続
いて各委員長からの活動事業報告
があった。

【第一号議案 平成二十五年 収支決算書類及び付属明細書の承認について】

総務委員長より平成二十五年
収支決算書類及び付属明細書の説
明があり、全員異議なく満場一致
で承認された。

【第二号議案 役員改選について】

平成二十五年
度をもって役員
の任期が終了す
るため、新理事・
監事が満場一致
で承認され、別室
での理事会を経
て正副理事長、常
任理事が決定し
た。

議事の終了を
受け、船田副理事
の閉会の言葉に
より会を閉じた。





副理事長挨拶

栃幼連副理事長 石川 均



二年前の総会で選出されて以来副理事長という重責を全うすることだ

けを考えて参りました。石嶋理事長の行動力、そして包容力は私たち役員のやる気を高めてくれました。

課題があまりにも多いこの時期、連合会役員の果たすべき使命は多岐にわたります。今年度は、新制度の基準等が決まり、我々は否が応でも方向付けをしなければなりません。不易流行という言葉ではありませんが、どちらも必要なのではないでしょうか。最終的に決断するのは各幼稚園の設置者ですが、判断材料を提供するのは県幼連の仕事であると認識しています。気を引き締めて取り組みたいと思います。

無我夢中で活動した二年間ではありましたが、皆様の協力には大変感謝しております。そして数の力を改めて感じているところであります。再任されたからには理事長を支え、幼稚園振興のために邁進いたしますので、今後ともご指導ご

鞭撻としてご支援をいただきますようお願い申し上げます。

栃幼連副理事長 中川 祐慈



この度の五月通常総会におきまして、再任のご承認をいただき

きました。石川均副理事長、船田弘和副理事長の両先生と共に石嶋勇理理事長を全力で補佐していく所存であります。どうかよろしくご指導をお願いいたします。

連合会の役目は教育環境を守り、さらに向上させていくことと考えています。現在、幼稚園は過去に例を見ない変革期の中にあります。特に、子ども・子育て新制度の施行前年度となる二十六年度は、窮屈なスケジュールの中で制度の中核をなす内容が忙しく示されてきています。わずかな期間でその内容を理解・斟酌し、方向を定め意思決定し準備を進めていくことに、不安や戸惑いを覚えている園は少なくありません。私学の理念や、制度の趣旨が財政措置されているかという評価や、関係する情報が少ないことなども一因であります。

そのような中であって県幼連の新制度における役目も多様な動き

が求められています。速やかな情報伝達や解析、多様な選択に対するケアや行政機関との協議や連携、連合会の堅持、また、保護者家庭や社会に対しての説明責任など重要な対応が山積しています。各地区や各委員会と緊密に連携し臨んでいく所存です。何卒ご協力をお願い申し上げます。

栃幼連副理事長 船田 弘和



前回推薦委員会からの突然の推挙に戸惑う間もなく、大役をお受け

してから二年間、支えなければならぬ石嶋勇理理事長に支えられ、役目を終えるべく反省をしております。「連合会からお電話です。」受話器をとると今井先生の「正副理事長推薦委員会の…」の声。関東地区教研大会を控え、私では力不足なのではこの思いは今も変わりますが、先の二年間でお世話になった先生方へのご恩返しのもりで、お引き受けさせていただきました。

担当する教研委員会では、大きな成果を残された山荷委員長に代わって、向上心あふれる小倉委員長が就任し、認定こども園対策委員会はスペシャリストの中山委員

長が再任されました。また栃幼連期待の青年部委員長も上野先生が再任し、盤石の体制が整いました。二期目となりますが、ご指導と合わせて関東地区教研大会につきましてご理解とお力添えをよろしくお願い申し上げます。

各委員長挨拶

総務委員長 平野 章雄



引き続き委員長を仰せつかり、微力ながら任に当たりたいと思います。

まず、関東地区教員研修栃木大会の成功に向けての準備・当日の運営、年々厳しくなっている幼稚園教諭・保育士等の人材確保、連合会の一般社団法人化に伴い定款の大幅な変更に伴う運営上の問題、そして子ども子育て支援新制度の施行に伴い定款等の諸規則の改正等予想される諸問題も多く、重要な二年間になります。当委員会としては、各委員会・事務局との連携を密にして会務の円滑な執行を目指し、幼稚園・教職員・園児・連合会・家庭の力をより一層高めるために最善の努力を発揮していきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。



振興委員長 馬場 章信



幼稚園が選択を迫られる今、振興対策活動も多岐にわたり、かつス

ピードが要求されます。今こそ、栃幼連の組織力、機動力を発揮して事に当たっていかねばなりません。

委員長は、委員十一名のまとめ役です。各委員が地区を代表し、栃幼連を代表する意識を持って振興活動に取り組めるよう努めて参ります。どうか、加盟全園のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

教育研究委員長 小倉 庸寛



この度、教育研究委員長を仰せつかりました。重責ですが、諸先輩方

のご助言をいただきながら、委員の皆さんと力を合わせて、質の高い幼児教育の学びを提供できるよう尽力する所存です。今年度は関東地区教員研修栃木大会もごさいます。さらに皆様のご協力をいただきたく存じますので、よろしくお願いいたします。

経営研究委員長 荒居 養雄



引き続き委員長を仰せつかりました。今年は子ども

子育て支援新制度を次年度に控え、各園大きな決断とその準備にとりかかる大切な年となります。ピンチからチャンスへ。各園が将来を見据えた経営・運営に資するよう年四回の設置者園長研修会はすべてその対応に向けた内容としました。

黒田光泰副委員長他、所属委員とともに研修内容の充実に尽力してまいりますので、皆様のご協力よろしく願います。

広報委員長 宇南山照元



この度、広報委員長を務めさせていただきますことになりました。『栃幼

時報』の発行の中で、研修会、各地区の情報等の他、今年度新たに展開されていく新制度の動向も発信していきます。HP委員会では、斉藤委員長を中心に、栃幼連HPの速やかな更新と情報発信システ

ムの更なる充実に向けて、委員の先生方と共に取り組んでまいります。よろしく願います。

一〇二条園対策委員長 根村 隆宣



引き続き委員長を務めさせていただきますこととなりました。よろしくお

願い申し上げます。

平成二十七年より施行される子ども・子育て支援新制度により、一〇二条園にも一条の光が見えてまいりました。学校法人への移行が俟たず、経営に苦慮されてこられた幼稚園の皆さまにとりましては、正に千載一遇の好機となります。各園、ご事情はありかと思われませんが、心機一転、運営の改善とともに幼児教育に邁進されま

認定子ども園対策委員長 中山 昌樹



このたび「新制度」移行（予定）を直前に、改めて委員長を拝命いた

しました。認定子ども園対策委員会では、なぜ「新制度」が必要なのかという問いかけをベースに、今日の前にいる、すべての子ども『最善の利益』のために、教育・保育、子育て支援、地域や行政との関わり等がどうあるべきかを皆さんと模索したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいた

青年部委員長 上野 和彦



引き続き務めさせていただきますことになりました。私

は、この青年部委員会に在籍してからの数年で、大きく成長させていただいた実感があります。青年部の年齢だからこそ、学べることはあるはずですし、また二代目・三代目だからこそ、学ぶべきこともあると思います。

この委員会の意味や意義を最大限に活かせるよう、更なる充実を目指し、二期目を努めていこうと考えています。

平成26・27年度 栃幼連役員・委員会構成

平成26年5月16日現在

理事長	石嶋 勇（すずめ）		
副理事長	石川 均（アルス）	中川 祐慈（清滝寺）	船田 弘和（おおみや）
	【総務・振興・102条園 委員会担当】	【経営研究・広報 委員会担当】	【教育研究・認定こども園・青年部 委員会担当】

●総務委員会

委員長	平野 章雄（栗の実）	専門委員	國古眞理子（みふみ）
副委員長	古水 義浩（烏山みどり）	//	板美 幹代（こぼと）
委員	中里 光江（山王）	//	栗原 健治（国谷）
//	佐藤 広志（七井）	//	内木 大輔（第二薬師寺）
//	大塚 真司（東光寺）	//	佐藤 峻介（いすみ）
//	堀川 照子（鹿沼みどり）		

●振興委員会

委員長	馬場 章信（たから）	専門委員	高瀬 恵（佐野みのり）
副委員長	山越 忍隆（足利）	//	富川 将（間々田）
委員	金子 礎泰（聖）	//	荻原 庸男（仁神堂）
//	三田 敏夫（足利こぼと）	//	根村 隆宣（輪王寺附属日光）
//	大久保信男（やすづか）	//	矢板 真雄（なでしこ）
//	齋藤 君世（高根沢第二）		

●教育研究委員会

委員長	小倉 庸寛（愛泉）	専門委員	五十嵐市郎（宇大附属）	中川 文（清滝寺）
副委員長	山崎 英明（釜井台）	//	加藤みどり（真岡さくら）	大嶋 裕（今市中央）
委員	今井 政範（さくらが丘）	//	井上 智賀（旭）	岡本 純世（すみれ）
//	小林 研介（呑竜）	//	田名網優子（明星）	栗田 英子（黒羽）
//	斎藤 佳子（しずわでら）	//	大久保智子（やすづか）	
//	大中 清見（法得）			

●102条園対策委員会

委員長	根村 隆宣（輪王寺附属日光）
副委員長	中臣 正範（めぐみ）
専門委員	手塚 節子（親和）

●経営研究委員会

委員長	荒居 養雄（育成館）	専門委員	新田 文英（足利いすみ）
副委員長	黒田 光泰（ひかり）	//	堀 昌道（岩舟）
委員	稲川 康代（平出）	//	小野瀬泰弘（楠工ンゼル）
//	落合 久恵（岡本）	//	桑門 秀光（今市）
//	荒木 龍胤（せんだん）	//	斎藤 幸成（高根沢第二）
//	大豆生田光男（小山西）		

●認定こども園対策委員会

委員長	中山 昌樹（あかみ）	専門委員	永田 文子（さくら）
副委員長	福本 光夫（西那須野）	//	薄久保尚史（陽の丘）
		//	岩本 春枝（しらゆり）
		//	若林 孝幸（西方なかよし）
		//	小倉 睦美（むつみ愛泉）
		//	岡本美代子（すみれ）
		//	秋間 修（那須）

●広報委員会

委員長	宇南山照元（真岡ひかり）	専門委員	篠原真木子（茂木愛泉）
副委員長	斎藤 達成（あけぼの）	//	遠藤 英昌（花園）
委員	田崎 容子（平出むつみ）	//	佐野 延洋（洗心）
//	香川 玲子（鹿沼ひかり）	//	関口 修司（平川）
//	松島 則子（清滝）	//	黒川 弘照（栃木みどり）
		//	伊沢 信恭（静林）
		//	長内 郁子（烏山聖マリア）

●ホームページ委員会

委員長	斎藤 達成（あけぼの）	委員	石川健太郎（アルス南）
委員	金子 礎泰（聖）	//	伊沢 信恭（静林）
//	稲川 康代（平出）	//	橋本 慎平（鹿沼みどり）
//	吉羽 俊明（高ノ台）	//	大嶋 裕（今市中央）
//	遠藤 英昌（花園）	//	吉水 義浩（烏山みどり）
//	佐野 延洋（洗心）	//	月江正太郎（虹ヶ丘）

●青年部委員会

委員長	上野 和彦（にのみや）	地区幹事	落合 久恵（岡本）	佐野 延洋（洗心）	青柳 貴也（晃望台）
副委員長	太田 千晴（中鶴田）	//	佐々木桐子（萌丘）	市村 直哉（しずわでら）	岡本 純世（すみれ）
//	内木 大輔（第二薬師寺）	//	川崎 寛章（真岡杉の子）	栗原 賢臣（国谷）	秋間 英司（黒磯）
		//	前田 浩輔（友愛）	赤井 義明（ひまわり）	



栃木県私立幼稚園振興連盟
平成二十六年年度総会

平成二十六年年度栃幼連通常総会終了後、栃木県私立幼稚園振興連盟の総会がコンセールにて開催された。



石嶋均振興連盟会長の挨拶の後、議長に山崎英明氏（釜井台幼稚園）を選出後、「資格審査」

名中、出席九十八名、委任状出席七十九名、「議事録署名人」川崎寛章氏（真岡杉の子幼稚園）笹沼慶子氏（こばと幼稚園）、「記録人選出」河合智美氏（事務局）の手続きを経て議事に入った。

①平成二十五年事業報告並びに収支決算の承認について、②平成二十六年事業計画（案）並びに収支予算（案）の承認について、③自民党栃木県私立幼稚園支部平成二十五年収支決算並びに平成二十六年収支予算（案）の承認について、④役員改選についての四議案は、すべて原案通り可決承

認された。栃幼振興連盟会長及び、自民党県私幼支部長には、石川均氏が再任した。

終了後開催された幼稚園教育振興懇談会は、二十五名の県会議員の先生方にご出席いただき、有意義な懇談となった。



教員養成機関・栃幼連懇談会

平成二十六年六月三日（火）

午前十時三十分～

於：二荒山会館（亀の間）

県内の幼稚園教諭養成機関と栃幼連正副理事長・常任理事との恒例の懇談会が開催され、平野章



雄総務委員長の進行のもと活発な情報交換が行われた。

●出席した教員養成機関（順不同）

作新学院女子短期大学部二名、白鷗大学三名、國學院大學栃木短期大学二名、足利短期大学一名、佐野短期大学一名、宇都宮共和国一名、国際介護福祉専門学校二名、宇都宮ビジネス電子専門学校二名

●主な懇談内容

自己紹介の後、参考として平成二十六年採用者数二百八名、二十五年途中で二年未満退職者が七十三名いた状況報告がされた。

就職説明会について、昨年は二十四年度対比、参加園が増加したが、参加学生の減少傾向が見られ、養成機関からどのような原因があるか説明を受けた。一般企業保育園からの採用増加。首都圏への就職希望など比較的給与等安定している事も背景にあるようである。県内の幼稚園との縁を結び上でもぜひ参加を促してほしい。

教育実習について、養成機関からの要望として、発達障害を持つた学生が勉強し資格取得希望がある事を知っておいてほしい。一部幼稚園が実習生に対して素案でなく細案の作成を指導教諭に指示され、悩んでしまう学生がいるとい

うことで、無理な要求が行われないうこと、確認した。ピアノに関して心配があるようである。各養成校の就職希望状況を聞くと、幼稚園希望が約四割、保育園希望約五割位で保育所志向がみられる。

男子学生の採用について、将来人生設計する上で待遇が心配であるが、現状をしっかりと話していく事と様々の事に挑戦して永年努めて欲しい旨の幼稚園からの意見があった。

近年の幼稚園教諭志望者減少という危機感のせいか、実習期間中に内々定、内定を出す幼稚園がある。各学生が、幼稚園へ気軽にアプローチし、園を見学したり、自主実習を柔軟に対応する等、相思相愛で就職できる環境整備が必要である。今

後も養成機関と連合会で連携して様々な観点から意見交換が行われ、互いに善処していくことを確認した。





幼児教育センターだより



今年度のテーマは、

「一人一人と集団を育てる」です

今年度、幼児教育センターでは「一人一人と集団を育てる」をテーマに掲げ、様々な研修を企画しています。これから九月にかけては、

●合同研修（幼・保・小）

●特別支援教育研修

などの研修を実施します。

「合同研修」では「一人一人と集団を育てる」をテーマに幼児期から児童期に大切にしたい子どもの姿や教師のかかわりを考えます。協議では「一人一人と集団を育てるために私にできる三つのこと」を明らかにしていきます。

特別支援教育研修では、幼稚園、保育所の教職員から、「環境構成や援助の工夫」「園内支援体制」「関係機関との連携」「保護者支援」の実践発表があります。また、「一人一人と集団を育てる特別支援教育」と題して、宇都宮大学の司城紀代美氏から講話をいただきます。

幼児教育センター主催の 研修参加申込みはこちらから！



研修の申込みは、こちらの研修案内を御活用ください。研修内容とFAX申込書が一体となっており、そのまま送信できるようにしております。

今年度は、お手元においていただけるように赤いひもをつけました。一年間、保存して、ぜひたくさん活用してください。

職員室に下げておけるよ！



研修に参加する際には、必ず「幼稚園教育要領解説（平成二十年十月）」を持参してください。

たくさんの方の参加をお待ちしております。

※六月二〇日に予定していた「トッ プセミナー」を諸般の事情により延期いたします。今後の実施につきましては、別途御案内いたします。

新規採用幼稚園教諭研修

四月二日、新規採用幼稚園教諭研修第一日を総合教育センターで実施しました。新規採用教諭二〇七名が研修に臨みました。

開講式では、金田繁夫文書学事課

長、石嶋勇祐幼連理事長、田淵光与幼児教育センター長から挨拶があり、幼稚園教諭となった先生方へ励ましの温かいエールが送られました。



「幼児期の教育」「幼稚園教育とは」「一人一人を大切にしたい教育」「幼児期の健康管理と安全管理」「幼稚園教諭とは」の講話があり、受講者からは「改めて先生になる喜びを感じ、がんばろうという気持ちが強くなった。」「幼児が安全に楽しく過ごせるように環境づくりに励みたいと思った。」「子どもにとって大好きな先生になりたい。保護者にとっても信頼のおける教師になりたい。」などの感想が多く寄せられました。

受講の先生方が、幼児とのかかわりを深められるよう、職員一同応援させていただきます。



園内研修を応援します！

幼児教育センターでは、園内研修等への支援として、保育・教育アドバイザーの派遣を行っています。「研修に行けなかったけど、内容が知りたい。」「保育研究がしたい。」「園内研修の方法が知りたい。」などの要望がありましたら、ぜひ御相談ください。詳細は四月に郵送しました保育・教育アドバイザーの案内を御覧ください。

センター職員紹介

今年度は、二名が新メンバーとなり、八名の職員でスタートしました。

転入

●指導主事

黒川 貴広

●幼児教育専門員

吉田 カヨ

●幼児教育専門員

栗田 英子

●黒羽幼稚園長（兼任）



よろしくお願いします

これまで同様、御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

望がありましたら、ぜひ御相談ください。詳細は四月に郵送しました保育・教育アドバイザーの案内を御覧ください。

お電話ください！



学事だより

県文書学事課

四月の定期異動により、金田課長、古林副主幹、齋藤係長が配属となりました。

引き続き私立幼稚園行政の推進に努めてまいりますので、本年度もよろしくお願いいたします。



- 野中 主査
 - 古林 副主幹
 - 榎山 主査
 - 土屋 課長補佐
 - 篠崎 主事
 - 金田 課長
 - 齋藤 係長
 - 篠原 課長補佐
- (総括)

学校基礎調査(教職員確認等)のヒアリング実施について

学校基礎調査(第二回・教職員確認等)のヒアリングを次の日程で実施します。御多忙のところ誠に恐縮ですが、担当者の出席について、御協力をお願いします。

●日程

七月十四日(月)、十五日(火)、十七日(木)、十八日(金)、二十二日(火)、二十三日(水)

●場所

栃木県庁本館六階大会議室一(七月二十二日(水)のみ研修館二〇四研修室)

その他詳細については、別途送付する通知文を参照してください。

各種届出書類について

●園則や園地・園舎、理事・監事等の変更を行った場合は、速やかに各届出を提出願います。

●学校法人の平成二十五年度決算書及び平成二十六年度収支予算書の提出期限は、六月三十日です。

●平成二十五年度決算に伴う資産総額の変更登記は、五月三十一日までにを行い、登記済届を六月三十日までに御提出ください。

平成二十六年七月～九月までの事業予定

7月6日	就職説明会
7月8日	※合同研修(幼・保小)
7月10日	保育セオリー講座
7月11日	資質向上選抜養成講座X
7月16日	新採研(集合研修)
7月22日	※10年経験者研修
7月22日	新採研(宿泊研修)
8月1日	※10年経験者研修
8月18日	全日私幼関東地区教研大会栃木
8月19日	免許状更新講習
8月22日	(公財)幼児教育実践学会(東京)
8月27日	※保育・教育課程研究セミナー
8月28日	※パワーアップセミナー
8月29日	※10年経験者研修
9月2日	※特別支援教育研修
9月3日	全日私幼連PTA大会(東京)
9月5日	保育テクニカル講座
9月12日	設置者・園長研修会
9月18日	資質向上選抜養成講座X
9月26日	※調査研究委員会
	※は幼児教育センター事業

慶事

- 平成二十六年年度
県各種功労者表彰(県知事表彰)
吹上幼稚園
理事長 酒井 精一 先生
- おおみや幼稚園
(おおみや幼児教育センター)
新園舎 落成式
平成二十六年四月五日
- かしわ幼稚園 新園舎 竣工式
平成二十六年五月二十四日

訃報

●岩舟町 岩舟幼稚園
前理事長・園長 堀 隆道 先生
平成二十六年三月十八日 逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

石嶋勇理事長のもと、新体制でスタートした平成二十七年。新学期から二カ月が過ぎ、子どもたちの園生活も新緑の躍動感と同じに活発な遊びが展開されています。

我が園では、四年に一度サッカーワールドカップのこの時期、日本代表の応援をします。日本国民が一体となって応援することで、大きな力となり、友だちと共有することのすばらしさ、充実感を経験できればと思っています。地球儀を出して、地球の裏側のブラジルはどこにあり、どんな国なのか。出場する国はどんな国があるのか、国旗を調べて絵を描いたり、世界のいろいろな人々や食べ物、特徴を知り、その過程で、より広く人や物に対して尊重する心が育っていかばと願っています。

今年は、子ども・子育て支援新制度に向けての幼稚園の過渡期。これから日本の将来を支えていく子どもたちへの環境整備は、我々大人の役目です。「子は親の鏡」にあるように、「ありのまま」に生きる子どもたちが安心して遊ぶ環境を提供していく事が、真の幼児教育だと信じてみなさん力を合わせていきましょう。

(広報委員長 宇南山照元)